英国式金管バンド演奏会

SETAKOMA BAND IN CONCERT 2026

THE SPIRIT OF PUCCINI

2026年
10月18日（日）
１３：３０開演（１３：００開場）
エコルマホール

指揮
武藤　卓
Suguru Muto

お問い合わせ先　setakomaband@gmail.com
www.setakomaband.com

主催　セタコマバンド

Instagram　X　facebook

Message ごあいさつ

本日はご来場いただき、誠にありがとうございます。 日頃より私たちの活動を温かく支え、このステージを実現するためにご尽力してくださった全ての方々に、心より感謝申し上げます。

第1部のメインには、H.パルフーバーの「The Spirit of Puccini』を選曲しました。プッチーニの名曲が盛り込まれた、とても華やかで情熱的な作品です。セタコマがこれまで大切に磨いてきた音楽と、ブラスバンドならではの響きを合わせて、私たちらしく演奏したいと思います。

第2部では、皆様にもきっと耳馴染みのある曲や、美しいデュエットなど、雰囲気の異なる曲を取り揃えました。最後まで楽しんでいただけるよう、心を込めて演奏します。

それぞれの曲の魅力を感じながら、どうぞごゆっくりお楽しみください。

セタコマバンド代表　池田真代

Conductor 指揮者紹介



武藤 卓 *Suguru Muto*

千葉県出身。東京ミュージック＆メディアアーツ尚美卒業、2011年フランスへ留学。ペルピニャン地方音楽院卒業後、リヨン国立高等音楽院修士課程修了。

第25回ヤマハ新人演奏会、フランス、トゥールで行われたユーフォニアム・テューバコンクールにおいてファイナリスト、第29回日本管打楽器コンクールにおいて3位(1位なし)。留学中にBrass Band du Rhône、Brass Band de Lyonに参加。エキストラとしてParis Brass Bandを始め、フランス、スイスなどブラスバンドにも参加。またフランスのユーフォニアム・テューバキャンプで講師を務める。

現在日本で活動中。セタコマバンド常任指揮者。エンペラーペンギンブラス指揮者。ハッピーペンギンブラストレーナー。

Setakoma Band バンド紹介



東京都世田谷区・狛江市を拠点に活動する英国式ブラスバンドです。2018年、「楽しくも向上心あふれる活動」を掲げ始動しました。本場の伝統に敬意を払い、「音を磨き、心に響かせ、人生を彩る」という想いを込めて、唯一無二の「セタコマサウンド」を追求。地域に根ざしながら、本場にも引けを取らない本格的な響きを目指し、最高の仲間と共に日々熱く活動しています。

#セタコマコンサート　のハッシュタグをつけて感想をどしどし投稿してください！

Instagram

X

facebook

各種SNSも随時発信しております。
ぜひフォローしてセタコマの最新情報をご覧になってみてください！
QRコードで読み取り、もしくは「SETAKOMA BAND」で検索！

Programme

第 1 部　The Challenge　―セタコマバンドの挑戦―

Euroflash　Damien Lagger 作曲

スイスのトップブラスバンド Valaisia Brass Bandのために書かれたこの曲は、その名の通り閃光のような音楽が駆け抜ける華やかなオープナー作品です。2019年のヨーロッパ選手権でValaisia Brass Bandによって初演され、その鮮烈な音楽性で大きな印象を残しました。

冒頭のファンファーレや、各セクションなどで受け渡し合う細かなパッセージたち、そして中間部の甘美なソロなど、音楽は次々に表情を変えていきます。短い作品の中に技巧性と圧倒的な推進力が凝縮された一曲です。

今回のセタコマの挑戦、その幕開けにふさわしい作品です。

The Spirit of Puccini　Hermann Pallhuber 作曲

ヘルマン・パルフーバーは1967年、オーストリア・インスブルックに生まれた作曲家・指揮者です。ウィーンの音楽院、インスブルックのモーツァルテウム関連機関、そしてインスブルック大学に学び、指揮をマウリツェ・ハーマースに、作曲をリヒャルト・ヘラーに師事しました。2007年からはチロル吹奏楽連盟のランデスカペルマイスター（州首席指揮者）を務めています。

ブラスバンドの世界では、ブラスバンド・オーバーエスターライヒの委嘱作であり、2009年9月12日にバーミンガムのシンフォニー・ホールで開かれたブリティッシュ・オープンの課題曲に選ばれた《Titan's Progress》の作曲者として、まず名前が知られています。本日演奏する《The Spirit of Puccini》も、同じ2009年の作品です。

ブラスバンドの「コンテストピース」とは、バンドの技術的・音楽的ポテンシャルを全方位から引き出すために設計された特殊な楽曲です。コンテストという競争の場を持たない私たちにとって、こうした難曲への挑戦は、アンサンブルの緻密さを磨き、バンドの現在地を正しく把握するための「指標」となります。順位のためではなく、音楽本来の輝きを解き放つために全機能を全うさせる。この試練を通じた音の深まりこそが、2018年の始動以来私たちが掲げる「向上心」のあり方です。

本作は、ジャコモ・プッチーニのオペラから採られた旋律を素材としています。《トスカ》から〈星は光りぬ〉、《トゥーランドット》から〈誰も寝てはならぬ〉、《ジャンニ・スキッキ》から〈私のお父さん〉。さらに同じ《トスカ》のアリア〈Senti, l'ora è vicina〉が、作品の随所にユーモラスな姿で登場します。

ただし、これはオペラ・メドレーでも編曲でもありません。旋律は誰もが知るものですが、その下に置かれた和声、対位、音色の設計は、まぎれもなく現代のブリティッシュ・ブラスバンドのものです。出版社の解説はこの作品を、イタリア・オペラの影響と現代ブラスバンドの響きの双方に誠実であろうとした「本物のバンド音楽」だと表現しています。

そして、バンドの全セクションの首席奏者それぞれに、技術的にも音楽的にも容赦のない場面が用意されています。これは偶然ではありません。この作品は、コンテスト用の楽曲として書かれているからです。2009年のヨーロッパ選手権において、オーストリアの強豪ブラスバンド・オーバーエスタライヒの自由曲として委嘱、初演され、その後も2013年のフランス選手権オナーズ・ディヴィジョンでは課題曲に採用され、パリ・ブラスバンドが優勝しました。その後もオセアニアやアメリカ、ヨーロッパ各地の大会で、自由曲としてたびたび選ばれています。自由曲とは、課題曲と違い、バンドが自ら選んで持ち込む曲のこと。つまりこの作品は、当代屈指の名手を揃えたオーストリアのバンドが、その一人ひとりを聴かせるために用意した一曲として生まれています。また、現地の評では「別の惑星から来たような演奏」と記事になるように、ブラスバンドの作曲史において新しい転換的な楽曲となったのです。

なかでも耳を引くのは、作品の中心に置かれた長大なコルネット独奏でしょう。鐘のような連打が鳴りやんだ静けさのなかから、ソロ・コルネットがただ一人で歌い出します。そのまま15小節近く、時間にして1分を超えて、吹き続けます。まわりにあるのはごく弱い持続和音だけ。ほとんど無伴奏に近い状態で、オペラのアリアそのものの旋律を、一本の楽器が背負います。やがて旋律はコルネット・セクションへ、さらにバンド全体へと受け渡され、大きな歌となって頂点を迎えます。

独奏が置かれているのはコルネットだけではありません。ユーフォニアム、フリューゲルホルン、トロンボーン、E♭ベース、各セクションの首席奏者それぞれに、逃げ場のない場面が用意されています。

本日の演奏は、2026年現在のセタコマバンドの集大成ともいえるものです。どうぞお楽しみください。

第 2 部　The Brass Entertainment　―魅せるセタコマステージ―

Sabre Dance　Aram Khachaturian 作曲　J. Graham Walker編曲

コンサート第二部の幕開けを飾るのは、アルメニアの作曲家A.ハチャトゥリアンの代表作であり、バレエ音楽『ガイーヌ』の中で剣を用いて舞う情景を描いた「剣の舞」としてもよく知られる曲です。今回はJ.グラハム・ウォーカーによる英国式金管バンドのためのアレンジ版でお届けします。

金管楽器特有の華やかで力強いサウンドと、打楽器が打ち鳴らす躍動感あふれる強烈なリズムが、コンサート後半のステージをエネルギッシュに勢いづけます。

Hymns of Praise　Goff Richards 作曲

本作は、英国BBCのテレビ番組『Songs of Praise』で親しまれた讃美歌をもとに、ゴフ・リチャーズが手がけたブラスバンド編曲です。2004年、グラスゴーで開催されたヨーロピアン・ブラスバンド選手権において、ナショナル・ユース・ブラスバンド・オブ・スコットランドによって初演されました。数々の有名な讃美歌をつないだ、華やかなメドレーです。

この見事なアレンジには「聖フランシスコの平和の祈り」や「シャイン・ジーザス・シャイン」が含まれています。さらに耳を澄ませば、「To God be the Glory』や『Great is thy Faithfulness』など、親しまれている数々の讃美歌の旋律が次々と現れることに気づくでしょう。まさに「讃美歌の宝箱」と呼ぶにふさわしい、充実した内容をお楽しみください。

A Lyrical Duet　テナーホーン: 塩澤なつみ　バリトンホーン: メールアンディ　Bert Appermont 作曲

ベルギーの作曲家ベルト・アッペルモントによる本作は、テナーホーンとバリトンという2つのソロ楽器の叙情的な魅力に焦点を当てたデュエット曲です。

楽曲は、表情豊かなテーマがまずバリトンによって奏でられ、それをテナーホーンが引き継ぐ形で幕を開けます。2つのソロ楽器による甘美なハーモニーや掛け合いを通じて、豊かな対話が繰り広げられます。中間部では、その叙情性がより技巧的なものへと変化し、遊び心のある軽快な表情が現れます。その後、バンド全体による壮大なトゥッティへと徐々に高揚していき、冒頭のテーマが再び力強く響き渡ります。最後は夢に満ちた冒頭の雰囲気をこだまさせるように、幻想的な静寂の中で幕を閉じます。

Mexican Hat Dance　Laurie Johnston 編曲

メキシコの舞曲「ハラベ・タパティオ」の音楽として、世界中で《メキシカン・ハット・ダンス》の名で親しまれている旋律です。19世紀に生まれた求愛の踊りで、床に置かれたソンブレロのつばを囲んで踊る場面で知られ、のちにメキシコを代表する国民的な踊りとなりました。一度聴けば誰もが口ずさめる陽気で軽快な旋律を、ローリー・ジョンストンの編曲により、ブラスバンドならではの華やかな響きでお届けします。

A Disney Spectacular　Goff Richards 編曲

英国ブラスバンド界の名作編曲家ゴフ・リチャーズが1998年に手がけた、ディズニー映画の名曲による大メドレーです。本日の締めくくりに、6本の映画から7曲をひと続きにお届けします。おなじみの旋律を次々に受け渡しながら、バンドのさまざまなパートに見せ場が用意されています。

壮大な序奏に続いて幕を開けるのは、『美女と野獣』の〈ひとりぼっちの晩餐会〉。燭台のルミエールがベルを晩餐に招く賑やかな一曲は、軽快な〈お砂糖ひとさじで〉（『メリー・ポピンズ』）へとつながります。

テンポを落とした〈ベラ・ノッテ〉（『わんわん物語』）では、ユーフォニアムが甘くゆったりと旋律を歌います。続く〈美女と野獣〉は、ソロ・コルネットの語らいから始まり、やがてトロンボーンが優しく主旋律を受け継ぎます。

一転して〈ビビディ・バビディ・ブー〉（『シンデレラ』）では、魔法使いのおばあさんの呪文にあわせて、低音セクションのE♭バスが主役に躍り出ます。空飛ぶじゅうたんの〈ホール・ニュー・ワールド〉（『アラジン』）で夜空を渡ったあとは、カリブ海風のカリプソのリズムに乗った〈アンダー・ザ・シー〉（『リトル・マーメイド』）で海の底へ。ここではいくつかの楽器によるソロが披露されます。

最後は〈お砂糖ひとさじで〉と〈ひとりぼっちの晩餐会〉が次々と帰ってきて、テンポはみるみる加速し、ついには猛烈なクライマックスへ。バンド全体で鳴り響く最後の一音まで、どうぞお楽しみください。

History　2018-2026

「ブラスバンドが好き」という純粋な原点

セタコマバンドの物語は2018年2月、世田谷と狛江を拠点とする数名の愛好家の手によって、小さな体験会から始まりました。「セタガヤ＆コマエ」の略称として親しまれたその名は、同年3月に正式な名称となり、地域に根ざした活動の第一歩を記しました。初期の活動では『Floral Dance』や『Oceans』といった楽曲に親しみ、バンドとしての初本番は、川崎市内の中学校でのイベント演奏。まだ何色にも染まっていない十数名での合奏でしたが、一歩ずつ音を重ねる喜びを共有することから、私たちの歩みは始まりました。

アンサンブルの研鑽と、本格的なステージへ

2019年は大きな転機となりました。ブラスバンドイベントである「東京ブラスバンド祭」へ初出演を果たし、その勢いのまま秋には第1回となる自主演奏会を開催。
しかし、その後のコロナ禍によって対面活動は大きな制限を受けます。その間も、ハッピーペンギンブラス様との合同録音会を企画するなど、逆境下でも「今できる音楽」を模索し続けました。また、この時期に挑戦した四重奏でのジャパン・ブラスバンド・アンサンブル・ナショナルチャンピオンシップにて全国大会2年連続上位入賞（2位、3位）は、個々の技量を高める大きな糧となりました。

難曲への挑戦を通じた「現在地」の確認

近年の演奏会では、エドワード・グレグソンの『Of Distant Memories』やハーバート・ハウエルズの『Pageantry』といった、ブラスバンド界における重要なレパートリーをメインプログラムに据えてきました。 私たちがこれらの難曲に挑むのは、自らの実力を誇示するためではありません。本場のコンテストで切磋琢磨するバンドへの敬意を払いながら、あえて厳しい要求がなされる楽曲に全力で応えようとすることで、自分たちの音楽をより深く、より緻密に磨き上げたいという願いからです。

2026年、本日のステージに寄せて

本日のメインに据える『The Spirit of Puccini』は、セタコマ創団後すぐに指揮者の武藤先生と「いつかこの曲を取り組もう」と定めていたセタコマにとって一つの目標の曲です。高度な技術を要するこのコンテストピースは、当時の私たちには高いハードルでした。しかし、体験会から始まった小さな輪は今、共にこの難曲に向き合える頼もしい仲間へと成長しました。 掲げてきた目標がついに現実のものとなります。今日ここで鳴り響く音が、私たちの現在地を映し出す誠実な響きとなるよう、一音一音に想いを込めてお届けいたします



Performers
出演メンバー

- Drums 本村　尚士
- Percussion 宮川　響
- Percussion 杉谷　比奈子
- Timpani 長澤　莉佳
- 3rd Cornet 中川　航
- B♭ Bass 齊藤　徹也
- B♭ Bass 加藤　史彬
- E♭ Bass 桜庭　遊喜
- E♭ Bass 鈴木　敏之
- 3rd Cornet 日比　晴菜
- Flugelhorn 青木　瑞生
- Solo Horn 中山　宏美
- 1st Horn 塩澤　なつみ
- 2nd Horn 梅村　ふうか
- 3rd Cornet 阿美　咲良
- Solo Cornet 高井　陽香
- 2nd Baritone 岩堀　雅美
- Bass Trombone 土戸　政人
- 2nd Cornet 本橋　惇有
- Solo Cornet 松田　雅明
- 1st Baritone メール　アンディ
- 2nd Trombone 森下　康彦
- 2nd Cornet 光武　克
- Solo Cornet 西山　純平
- Euphonium 石山　久美
- 1st Trombone 岩淵　礼奈
- Repiano Cornet 若井　麻理子
- Solo Cornet 佐藤　充
- Soprano Cornet 池田　圭太
- Solo Cornet 菊池　圭
- Conductor 武藤　卓
- Euphonium 池田　真代
- 1st Trombone 早野　梨菜

フランク音楽出版社

Publishing
Quality Music
Scan me

musikverlag frank

スイスからご協力頂いているフランク出版社！

吹奏楽からブラスバンド等幅広く購入できます！
https://www.musikverlag-frank.ch/

セタコマグッズ紹介！



右のQRコードより他商品もご覧いただけます！
ホームページ「CONTACT」よりお問い合わせください。

売上は全額セタコマバンドの活動費に
充てさせていただきます。

セタコマバンド団員募集中！

練習場所：狛江市近郊施設（＊主に　中央公民館）　　練習日：毎週土曜日　合奏 19:20～21:00

募集パートはホームページをご覧ください。見学大歓迎です！どうぞお気軽にお問い合わせください。

(Mail)setakomaband@gmail.com　(HP)setakomaband.com

次の演奏会は 2027年4月25日㈰　エコルマホールで開催予定です！
ご来場お待ちしております。